

# 夏秋キュウリ栽培における効率的な病害虫防除体系

福島県農業試験場 病理昆虫部  
平成15～17年度試験成績概要  
分類コード 03-01-23000000

部門名 野菜－キュウリ－病害虫防除  
担当者 芳賀紀之・中村淳・堀越紀夫・佐々木正剛・佐藤睦人

## I 新技術の解説

### 1 要旨

夏秋キュウリ栽培において、病害虫の発生状況に応じた防除(モニタリング防除)を基幹とした効率的な病害虫防除体系を行うことにより、化学合成農薬の使用延べ有効成分数で県慣行防除体系の50%以上削減できる。

- (1) 本県の夏秋キュウリ栽培における主要病害虫は、うどんこ病、べと病、炭疽病、褐斑病、アブラムシ類、ハダニ類である。
- (2) 病害防除では、約1週間間隔の予防散布とする。うどんこ病、べと病には耐病性品種を利用する。炭疽病、褐斑病は発生が懸念される7月中下旬から薬剤散布を開始し、発生初期に被害葉を必ず除去する。(表1)。
- (3) 虫害防除では、定植時に粒剤処理を行い、適宜、アブラムシ類、ハダニ類の発生増加に応じて薬剤を散布する(表1)。
- (4) 露地栽培及び防虫ネット被覆栽培ともに、病害虫の発生状況に応じた防除により、病害虫の発生が抑制され、収量や品質が安定して確保できる。ともに県慣行防除体系に対して化学合成農薬の使用延べ有効成分数で50%以上削減できる。(図1～4、表2、3)。

### 2 期待される効果

化学合成農薬の使用を大幅に削減でき、省力化が図られ、より安全性の高い生産物を供給できる。減農薬栽培や特別栽培の生産拡大が期待できる。

### 3 適用範囲

県内全域の夏秋栽培キュウリ

### 4 普及上の留意点

- (1) 気温・降雨など環境条件で病害虫の発生が急増する場合があるため、週1回、病害虫発生状況を調査する。
- (2) 対象病害虫によって薬剤感受性が低下している場合があるため、薬剤の選定に注意する。
- (3) ネット栽培では露地栽培よりも褐斑病の発生が多くなる傾向がある、土着天敵の侵入が阻害される点に注意する。

## II 具体的データ等

